

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-11C	12-304	慶應義塾大学
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Quantifying mediating effects of endogenous estrogen and insulin in the relation between obesity, alcohol consumption, and breast cancer.</p> <p>肥満、飲酒、乳がんとの関連の内因性のエストロゲンとインシュリン作用の定量的評価</p>		
<b>執筆者</b>		
Hvidtfeldt UA, Gunter MJ, Lange T, Chlebowski RT, Lane D, et al		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2012 Jul;21(7):1203-12. doi:		
<b>キーワード</b>		
アルコール、乳癌、肥満、インスリン、エストロゲン		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>内因性エストロゲンおよび／またはインシュリンへの暴露されることは、肥満、肉体的低活動と飲酒量と閉経後乳癌との関係を部分的に説明する。しかし、これらの影響の効果について生存率の分析設定の形で定量化した研究はなかった。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>血清エストラジオールレベルを測定している Women's Health Initiative-Observational Study にある 2 つの症例-コホート研究からデータを併合した。そして、その研究の一つはインシュリン・レベルも測定している。登録時点でホルモン療法を使用していない 50～79 歳の合計 1,601 人の女性（601 例）が対象となった。介在効果は、付加危険モデルに基づく新しい方法を適用し推定した。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>BMI(体重指標)の 5-単位の増加は、危険にさらされている 100,000 人の女性 1 年当たり 50.0 [95%信頼区間 (CI)、23.2-76.6] 例の増加と関係していた。23.8% (95%CI、2.9-68.4) はエストラジオールに、65.8% (95%CI、13.6- 273.3) はインシュリンに起因していることが判明した。エストロゲン受容体陽性の症例 (ER(+)) に限定すると、BMI によるエストラジオールの介在効果はより大きかった (48.8%; 95%CI、18.8-161.1)。断酒と比較して 7+ドリンク/週を消費することは 100,000 人当たり 164.9 人の (95%CI、45.8-284.9) 乳癌発症と関係していた。しかし、エストラジオールの貢献はなかった。乳癌発症のアルコールの効果は、ER(+乳癌)に制限された。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>乳癌にかかった BMI の関係は、一部はエストラジオールを通して、そして、より大きな部分は、インシュリンに媒介された。インパクト：本研究の結果は、過体重と肥満閉経後女性で乳癌リスクを低下させるためにインシュリンとエストロゲン・レベルを低下させる介入を支持する。</p>		